毎月二十二日一回刊行
本紙定價　一部　金五錢
廣告料　一行十五字詰　十五錢
大阪市住吉區阿倍野町七丁目八〇
關西大學千里山校友會新聞部
編輯兼行所　青木　實
電話次田一二三番
堺　替大阪一二八七五

英國　社會制度の基調

本莊鐵次郎

先日或婦人が私に英國の社會制度の基礎は義務本位なる點にあると言つた所が、或人が、それは反對に英人程利己的な權利本位の極端な國民は少い。と言はれた。其事が偶然の興味を惹ぜしめたので、之に關する私の考へを述べて折角の新聞欄よりの依頼に對する責めを果すことに仕度いと思ふ。

私が　英人に付て義務本位だと言つたのは次の樣な幾多の實例を頭に浮べたからであつた。

彼の大ナポレオンが歐洲をその馬蹄に蹂躪した破竹の勢を以てしても尚は一方性が能く抗し得る英國海峡を超えしめず遂に空しく同に導かしめたのは云ふまでもなくトラファルガーの一戰であつたその時フランス、スペインの聯合艦隊を眼前に控にてネルソン提督がその肺肝を通じて全英將卒に言つた言葉の聲は

England expect every man to do his duty

の信號であつた。ナポレオンの信號を見たる英將卒は血勇き肉躍るの意氣を以て彼の大膽を訓練したのである。各人その本分を盡すと言ふことが如何に彼等の胸奥の琴線に深鋭なる刺激を與へるのかは知らぬ。俺の知つて居るのは我國國のために明日の今ごろフランス艦隊がナイル河口を退却することのみが。と答へたとのことである。

又そのころの英雄の死生觀について面白い話がある。

戰場における敵の部下が夫々滅めて曰く

フレデリック一世

此單性者永久に活き續けるのか。

ナポレオン

死生は運だ。死ぬものなら樞密は地下に居れても死なねばならぬ。死なぬものなら彈丸雨飛の中でも決して死ぬものもやはりウエリントン

逃げるな、逃げ度くても各自の職分を思ひ國家に對する義務を考へたら逃げられぬ！はないかと又

現在　の大英帝國の宰相スタンレー・ボールドウイン氏は四十歳迄は實業界であつたが代議士であつた彼父から或日政界入を勸められたが氏は曰く「功名心のためなら廣告です。亜博士でも撮除人夫でも實業でも宰相でも、祖國に盡すことは皆同じです」とその所信を答へたから、その後間もなく政界に乘出して遂に第一回の内閣政界の存在で、所謂政界の

先日或婦人が私が英國の社會制度の基礎は義務本位なる點にあると言つた所が、或人が、それは反對に英人程利己的な權利本位の極端な國民は少い。と言はれた。其事が偶然の興味を惹ぜしめたので、之に關する私の考へを述べて折角の新聞欄よりの依頼に對する責めを果すことに仕度いと思ふ。

私が　英人に付て義務本位だと言つたのは次の樣な幾多の實例を頭に浮べたからであつた。

彼の大ナポレオンが歐洲をその馬蹄に蹂躪した破竹の勢を以てしても尚は一方性が能く抗し得る英國海峡を超えしめず遂に空しく同に導かしめたのは云ふまでもなくトラファルガーの一戰であつたその時フランス、スペインの聯合艦隊を眼前に控にてネルソン提督がその肺肝を通じて全英將卒に言つた言葉の聲は

England expect every man to do his duty

の信號であつた。ナポレオンの信號を見たる英將卒は血勇き肉躍るの意氣を以て彼の大膽を訓練したのである。各人その本分を盡すと言ふことが如何に彼等の胸奥の琴線に深鋭なる刺激を與へるのかは知らぬ。俺の知つて居るのは我國國のために明日の今ごろフランス艦隊がナイル河口を退却することのみが。と答へたとのことである。

又そのころの英雄の死生觀について面白い話がある。

戰場における敵の部下が夫々滅めて曰く

フレデリック一世

此單性者永久に活き續けるのか。

ナポレオン

死生は運だ。死ぬものなら樞密は地下に居れても死なねばならぬ。死なぬものなら彈丸雨飛の中でも決して死ぬものもやはりウエリントン

逃げるな、逃げ度くても各自の職分を思ひ國家に對する義務を考へたら逃げられぬ！はないかと又

現在　の大英帝國の宰相スタンレー・ボールドウイン氏は四十歳迄は實業界であつたが代議士であつた彼父から或日政界入を勸められたが氏は曰く「功名心のためなら廣告です。亜博士でも撮除人夫でも實業でも宰相でも、祖國に盡すことは皆同じです」とその所信を答へたから、その後間もなく政界に乘出して遂に第一回の内閣政界の存在で、所謂政界の

麗らかな……
初冬の陽ざし

幽境嵐山に想を練らす

寡默の木村教授

教授巡禮（二十三）

陽光は一杯に射してゐたが流石に冷氣を感じる秋の一日、新京阪で嵐山へ急いだ。嵐山は紅葉の季節には倒早のせいか探勝者は案外少く、人通り疎らな渡月橋を渡り、行くこと一丁餘嵯峨天龍寺に入る。長の宅があつた住居は大通りに面してゐる邊ひつそり淋しい位靜かだ。前庭から家の周り一帯に樹が茂つてゐる。剃を通じると星速敎授が笑顔で迎へられ、二階の一室へ案内された。「始めてな、そこらあたりをぐるつと、一廻り散歩して來よう」と氣輕く案内して下さるとふので、記者は遠慮もせず暮れかゝる名勝の地嵐山を孤つた。こゝから渡り一帯は山地の部としていつもかつと晴れ渡る樣なことはなくどんよりとして今にも小雨を呼びさうな陰鬱な空氣模樣である、こんなムみりとした空氣の方が却て幽境に適してゐる。

それから古寺を二つ程案内して戴いて敎授宅に引上げ、お手厚い饗應を受け、伺何ひを立てるのであつた。敎授は故阜市から十五、六里離れた山村に育たれ、敎阜の中學に學ばれ、京都の高等學校を卒へられ、東大の佛法科に進まれたのである。そして大正十年に御卒業後大學院に居殘られたが翌年例の大震災に遭遇せられ、日暮里に御住居があつた爲自宅には難に逢はれなかつたが、變後食物が悪かつた爲に、身體を壞され神戸の方へ移住され賢聖に ずを授ぜられた、敎授。最初全然敎職に就かれる意思は持たれなかつた、併し賢祉實生活も、一年餘りで止められ、又京大の大學院に席を置き研究を積まれることになつたが、十三年頃望まれて大阪高等學校の佛蘭西語教授となられた。併し究學心の强い敎授は恐ら外遊を思ひ立て一回、親しく身の上相談に應ぜられる由である。

次に最近の新聞に騒げる問題に移る。

二年間志社に招聘されて講師となられ、又翌年本學に迎へられて講師となられたが、同四年仁保學長の一つの現れは昭和三年、京都人聯合會創設に方り京大の中島博士と共に盡瘁せられ、その後法律相談所に社會部を設け、年週に一回、親しく身の上相談に應ぜられる由である。

次に最近の新聞に騒げる問題に移る。

論煙草も喫まれない、たゞ夕方、程近い麓に出て遊を散策されるのが唯一の慰みだそうだ。

敎授の所行實踐的なお性質の一つの現れは昭和三年、京都人聯合會創設に方り京大の中島博士と共に盡瘁せられ、その後法律相談所に社會部を設け、年週に一回、親しく身の上相談に應ぜられる由である。

次に最近の新聞に騒げる問題に移る。

論煙草も喫まれない、たゞ夕方、程近い麓に出て遊を散策されるのが唯一の慰みだそうだ。

敎授は資性、溫厚、篤實、不言實行の人、謹厚な性格は敎育者としてのプロフェッサーでゐられる。

又趣味は、と絶無にて、酒は勿論、一切の嗜好品は無しで、たゞ夕方、程近い麓に出て遊を散策されるのが唯一の慰みだそうだ。

敎授は資性、溫厚、篤實、不言實行の人、謹厚な性格は敎育者としてのプロフェッサーでゐられる。

又趣味は、と絶無にて、酒は勿論、煙草も喫まれない、たゞ夕方、程近い麓に出て遊を散策されるのが唯一の慰みだそうだ。

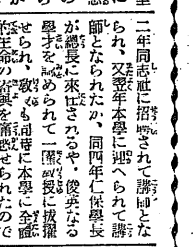
敎授の所行實踐的なお性質の一つの現れは昭和三年、京都人聯合會創設に方り京大の中島博士と共に盡瘁せられ、その後法律相談所に社會部を設け、年週に一回、親しく身の上相談に應ぜられる由である。

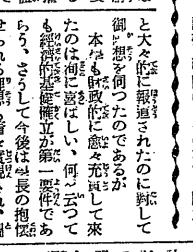
次に最近の新聞に騒げる問題に移る。

論煙草も喫まれない、たゞ夕方、程近い麓に出て遊を散策されるのが唯一の慰みだそうだ。

敎授の所行實踐的なお性質の一つの現れは昭和三年、京都人聯合會創設に方り京大の中島博士と共に盡瘁せられ、その後法律相談所に社會部を設け、年週に一回、親しく身の上相談に應ぜられる由である。

次に最近の新聞に騒げる問題に移る。





法・關西新聞提携紙上交驩

伊・エ戰爭の世界史的意義

法政大學教授　森　眞琴

イギリス　月のオッタワ會議で餌にイギリス・ブロックを結成して、ブロック結成への道を辿るに至つたのである。

は一九三二年七

議で餌にイギリス・ブロックを結成して、ブロック結成への道を辿るに至つたのである。

は一九三二年七月のオッタワ會

イギリス

植民地帝國は、その有する廣大な

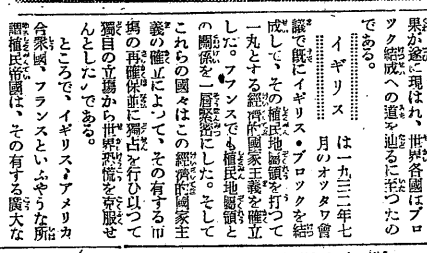
植民地帝國は、その有する廣大な

大と大陸に報道されたのに對して

本紙は何に意はしい、何ゝ云つて來たのは何に意はしい、何ゝ云つて來たのは經濟的基礎確立が第一要件であるとの意味で、新京阪の

本紙は何に意はしい、何ゝ云つて來たのは何に意はしい、何ゝ云つて來たのは經濟的基礎確立が第一要件であるとの意味で、新京阪の

氣分が横溢して來たのは非常に喜ばしいことである。と樣に面白い感慨を洩らされるのを聞いて記者も自ら心躍さに嬉しかつたので、記者は時は既に七時を過ぎてゐたが、厚く御禮をのべて辭した。先程聽かた嵐山の秀もとつく闇に包まれてゐた。



法・關西新聞提携紙上交驩

伊・エ戰爭の世界史的意義

法政大學教授　森　眞琴

イギリス　月のオッタワ會議で餌にイギリス・ブロックを結成して、ブロック結成への道を辿るに至つたのである。

は一九三二年七月のオッタワ會

イギリス

植民地帝國は、その有する廣大な

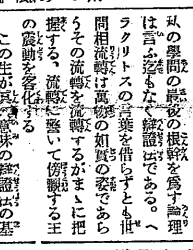
植民地帝國は、その有する廣大な

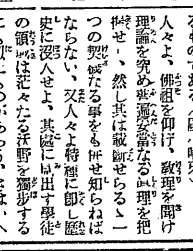
大と大陸に報道されたのに對して

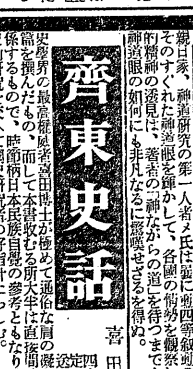
本紙は何に意はしい、何ゝ云つて來たのは何に意はしい、何ゝ云つて來たのは經濟的基礎確立が第一要件であるとの意味で、新京阪の

本紙は何に意はしい、何ゝ云つて來たのは何に意はしい、何ゝ云つて來たのは經濟的基礎確立が第一要件であるとの意味で、新京阪の

氣分が横溢して來たのは非常に喜ばしいことである。と樣に面白い感慨を洩らされるのを聞いて記者も自ら心躍さに嬉しかつたので、記者は時は既に七時を過ぎてゐたが、厚く御禮をのべて辭した。先程聽かた嵐山の秀もとつく闇に包まれてゐた。







潑剌たる報道陣
法、關兩紙の提携成る
學園の文化高揚を旗幟して
驀進する我新聞部

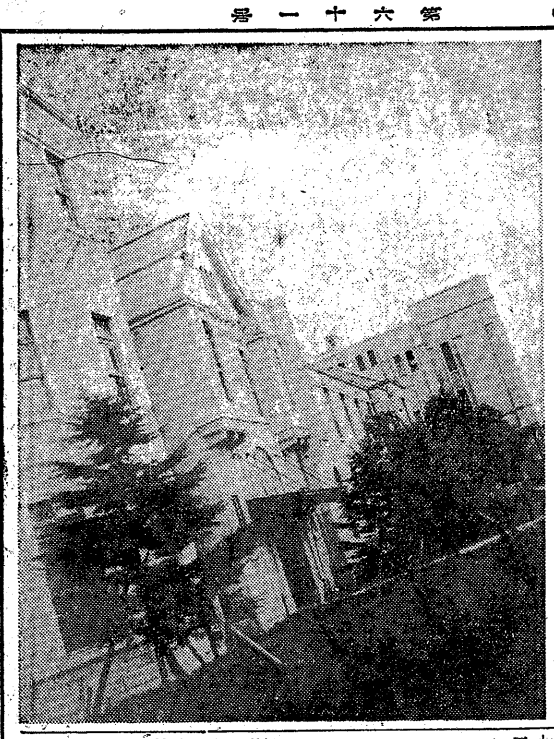
秋天一碧拭ふが如き秋晴、それは萬物すべての前進を約束し躍動を象徴する大きな姿である、寶的に漸く充實を發揮し得た我部も更に外部に向つて突進せねばならぬ好機であつた、こゝにおいて我部エクステンションの一表現として、我部は本學と最も密接且つ親交ある法政大學と我等に課せられたるニュースレポーターとしての使命に固く結ばれ、相共に學園の文化高揚への一助たらんと深くその責任の重大性を覺ゐ、去る十月四日部員二名東上、法政新聞學會に交渉せしところ同大學においては熱狂的な歡迎を以て我部の提案に賛意を表部員の使命を完うして歸阪、更に十月十九日法政大學より代表者の來阪ありて此所に全く萬端相協ひ先づ法政大學新聞學會實長鈴木義雄氏及本學新聞部長賀來俊一氏のメッセージ並に交換事業の一たる兩大學親授廣稿の交換によつて華々しくデビュアすることになつた、今後益々豐富なプランを發表し本紙に一段の彩を添へるだらう、なほこの事業は本邦大學新聞の最初の試みとして一般から非常な注目を以て迎へられてゐる

學内單獨的機能の殻を脱却して
東西文化の交驩に飛躍
法政大學新聞學會實長　鈴木義男

今回關西大學新聞部に法政大學新聞學會の提携を見所道同上の機会計らんとするは誠に同慶の至りである、この締結を期期として獨り兩新聞の親親關和に止まるのみならず、廣くこれを對大學全般にまで擴充し以て今般の快擧を益々宣揚あらしめんことを切望する。抑々兩大學緊密の實は既に數年來の懸案にして着々實績を收めつゝあつたが、學術關係方面において未だその觸手を見ざる折學生大衆の報道機關として最も普遍性を有する大學新聞が從來の學内單獨機能の殻を脱却して、東西文化の交驩にまで對外飛躍を試みんとするは時宜に適した企畫と稱すべく、更に兩新聞の眞摯なる活動によつて全國大學新聞の參劃に完拍車して特殊新聞としての使命を綜合的進展によつて達成し得ば今回の此の小擧も毒且つ又なる意義を有すると云へよう。

原稿交換
岩崎教授を送る

別項の如く交驩事業の一たる廣稿交換のトップを切るものとして、本學教授岩崎卯一氏にお願したところ、快諾せられ"嘉祥此吹會學の樹立に就て"の論題たる御寄稿を賜つた、



……晩秋の學園……

混沌たる選擧戰
猛運動始る
學友會評議員選擧は愈々今月下旬に行はれる事となり各部においては今や其の準備下作に大童で表面平穏裏に見受けられるが既に内々親友知己を通じて運動してゐる模様である、又今年度からは豫科一年生が選擧權を獲得し樣子に通じてゐない爲に現在の選擧を理想化し、目下を以て應援隊士の派遣を認める傾向があり今後更に混沌たる選擧戰に一層の拍車を加へることになるであらう、

前途多端の學友會
我等の關心や甚大
赤心一票—愛校心の發露
來年度學友會委員改選迫る

昭和十一年度學友會評議員改選も愈々旬日の後に迫り、亜秋動部は夫々自己の華やかな功績を、又文藝部は各々特有の立場を利して猛運動を開始し、來る可き聖戰に備へ、新設部の躍進は火に油をそゝぐかの如く日增しに選戰はあふられつゝある、數年來學友會の指導方針の再檢討など可成の物議を醸し其結果學門部學友會の併合並に各部の設備使用開放、教室内のストーブの設置に別として數年來の懸案たる校内、堂問題、新京阪電車賃値下、大學通の改修等の問題は依然として未だ具體化せず、加ふるに現在科教室（學友會館）の各部へ割當等當面の問題を殘して持越されんとしてゐる、これに對して學友會各部殊に運動部の活躍は日覺ましき飛躍をなし所謂運動部の華やかさに從來やゝもすれば壓倒され勝ちであつた文化團體各部も日を逐ふて充實しつゝ又新來は本學創立五十周年に當るので記念事業が種々畫策されてゐるが、愈々教授會によつて教授中より數名の記念事業準備委員を選出することとなり、是等委員は理事に協力してこれに邁進する筈で、例年の創立記念日十一月十三日が別項の如く十一月四日に變更されたものの祭典としては季節外れで

創立五十周年記念を控へ
萬全を期する準備委員
◇……記念祭は結局五月中旬か

來年は本學創立五十周年に當るので記念事業が種々畫策されてゐるが、愈々教授會によつて教授中より數名の記念事業準備委員を選出することとなり、是等委員は理事に協力してこれに邁進する筈で、例年の創立記念日十一月十三日が別項の如く十一月四日に變更されたものの祭典としては季節外れであり、結局繰上げられて五月中旬を目標に本學創立五十周年記念事業の一たる"本學創立五十年史"の編輯を終る

創立記念日
十一月四日にきめる

十年史"は本月初旬既に編輯も終り目下印刷中であるが、總頁數約四〇〇頁、多數の寫眞を挿入した豪華版で發行部數二千の發定であり主として學校方面、圖書館などに寄贈される筈である

圖書館の窓から見た
眞摯學徒の横顔（プロフィル）
數字が語る讀書慾の秋
何に讀み入る……學部、豫科生

昭和十年度學友會評議員選擧の結果は次の如く決定した

	法	經	商	文	社	學
教育學					一	八
産業	二	七	四	一	三	
商業	一	六	四	一		
自然科學	〇	〇	〇	〇		
美術	〇	〇	〇	〇		
語學	一	五	一	五	一	八
文學	一	五	一	一	一	六
法律	三	一	一	一	一	一
經濟	四	一	一	一	一	一
政治	二	一	一	一	一	一
歴史科	一	四	一	一	一	一
精神科學	一	五	一	一	一	一

正味一廿日間とすると毎日平均四八名となるわけである、因に六月十一日から七月十日迄の閲覧者六二八名と比べて激增してゐることは確石と思はせる、なほ各學部及豫科別にその期間内における貸出書の内容を分類してみると

	法	經	商	文	社	學
教育學	二	七	四	一	三	
産業	一	六	四	一		
商業	〇	〇	〇	〇		
自然科學	〇	〇	〇	〇		
美術	〇	〇	〇	〇		
語學	一	五	一	五	一	八
文學	一	五	一	一	一	六
法律	三	一	一	一	一	一
經濟	四	一	一	一	一	一
政治	二	一	一	一	一	一
歴史科	一	四	一	一	一	一
精神科學	一	五	一	一	一	一

法律書と經濟書の貸出數を法文、經商學部對比してみると興味あり、法律書は眞面目な高学年學者によつて、また精神科學（主として哲學）及び文學書が豫科生によつて多く讀まれてゐることは注目に値する、以上はまだ種類書でのみみてよくたゞ哲學、政治、經濟、文學に僅か出てゐるに過ぎないが洋書は殆ど貸出されなかつたと

迂余曲折の數旬を經て
朗かな經濟學會の確立
會長は正井教授に決定す

本紙六月號に一部報の經濟學會確立問題は杳としてその後の消息不明であり、或方面では早くも立消になる憂慮されてゐたが、第一學年學生有志の熱誠なる運動により經商學部各長正井教授を會長として遂に朗らかな成立を見るに至つた、その要旨は第五十八回例會の席上に於て提出、從來の經濟學會の機構を擴充し、目學を廢絶に行ふものであり、既に經濟學科一學年學生の過半數が入會して居る、なほ來年度の經濟學科入學者希望者多數の見込故多數會員を包容するに至れば益々組織の充實、更に、これを學生本位の人間學的研究會とし、教授若干名の顧問を置き、毎月一回例會を開催することに決定、會費は學生は一人一ヵ月金五十錢、教授は一人一ヵ月金一圓とし先輩諸氏の賛助を得て確乎たる基礎の下に永續化せんことを期せられたい。

此の提携を契機に兩新聞は相互の協和と共にそれ、缺陥を指摘し批判し善悪して共存共榮の實を擧げんことを希つて此の提携の記錄に代へる次第である。

精神的提携と紙上交驩は
我邦大學學徒の横顔
關西大學新聞部部長　賀來俊一

歴史の春を東都に飾り、不取敢兩大學の教授先生より仰ぐべき倉庫の交換こそ先づ、此上座に位すべきものに有り、仍て今回、本學出身にして社會學の一機関、學友會編輯部部長若崎卯一教授の論文を提供、以て貴學へ拝送申上くべき幸栄に浴せる次第に御座候

更に文筆を錯らずとも、亦講演の交換、座談會の開催の外、苟も新聞事業に關する計劃は一意專心、アップ・ツー・デートに其實行を輝かすべきことを信じ申候

按ずるに、兩大學新聞の精神的提携と紙上交驩に、蓋し我邦大學新聞史上、劃期的意義に富し、當に特筆大書、後世に銘せらるべきものなるを疑はず候へ共、鐵て又、幣部には未だ以て貴官に及ばざるもの多々これあるべしと被存候につけ、部員一同相携へて終始一貫、鞏に襷ら希望を河し、敢て、貴會の名譽に副り申すべく、其意意と熱情とに於て、翼くは讓らざらんことを期するものに御座候

終りに臨み謹で、貴會の御發展を謹上申げ併せて無辭言

昭和十年十一月十四日

關西大學新聞部部長　賀來俊一

法政大學新聞學會會長　鈴木義雄

創立記念日
十一月四日に改む

昭和十年十一月十四日に大阪市西區京町堀下通に創立開校したが直ちに同年十二月十三日に大阪市東區淡路町三丁目に移轉されたのであつたので從來移轉された日（十二月十三日）を創立記念日としてゐたが左記の理由に依り十一月四日に改められた、その理由は

本學の前身なる關西法律學校は明治十九年十一月四日に大阪市西區京町堀下通に創立開校したが直ちに同年十二月十三日に大阪市東區淡路町三丁目に移轉されたのであつたので從來移轉された日（十二月十三日）を創立記念日として定めたが、創立以來十一月四日を記念日として敬慕されたるものであつて、本學の創立五十周年を控へ今回記念日の改められたことは一般から賛成されてゐることとして親られてゐる

校友名簿
近く發刊

本年の創立五十周年記念事業の一として校友名簿が現在調査者は九名、神科四名、政治科一名、商科二名、豫科二名で、その主な論題は"法の社會學的考察"、"憲法なとゝ"、"ヴェルサイユ條約の研究"、"ドイツ國法"、"ヴェルサイユ條約の研究"、"ドイツ國法"、"ヴェルサイユ條約の研究"、"ドイツ國法

第八回明治神宮體育大會

陸部上

オリンピック候補に榮たり！五名選ばるの偉功輝く

第八回明治神宮大會は第二十二回日本陸上選手權大會を兼ね、快晴の秋日和に惠まれて、十一月二三の兩日神宮競技場で擧行された同大會はベルリンのオリンピック大會を目指す總決算の豫選大會なるをもつて、各種目にわたつて選手の奮鬪振り見ましく日本タイ記錄の出現を見、ベルリン大會における日本の大躍進が愈々期待されたわけである

我が陸上部より大島鐵吉（O・B）戸上神之一郎、谷口陸生—中距離、藤枝明英—中距離、松柳一長尾三郎の諸君らが參加して關西陸上界のため萬丈の氣焰をはいた

大會終了後去る五日オリンピック陸上競技選手候補五十三名中に前記五名堂々と編入され、斯くして我が陸上選手によつて日章旗の掲げられる晴の日も時間の問題となり一今より陸上部の世界的活躍ぶりが注目されてゐる

跳躍陣大—として新人であり最近驚然擡頭してゐる戸上は大島牢單の衣鉢を繼ぐに充分であり—ベルリン大會には大いに活躍せられんことを祈つてゐる

我陸上部は前回のオリムピック大會にも、大島、長尾の二選手を送り、華々しく國際爭鬪場に活躍し、又今夏ハンガリーの學生競技に長尾、谷口の二選手を派し、普く關大の偉名を全世界に發揚したのであつたが、又々今回ベルリン大會へ大躍五名の參加を見る活況を呈し、吾三の世界的健鬪振りは實に賞讃の外なく、學友諸士はこの偉業に衷心の謝意を表すると共に、その征途を盛んならしむるために熱誠なる聲援ならずんばはなしぬ

射撃部

對抗戰には大いに振ふ

十月二十六日夜、中村主將率ひるもとに部員十三名大阪出發—明治神宮大會に臨んだ、二十七日朝東京着、猛訓中を直ちに拓大主催の大學選手權大會に出場、疲勞と惡コンデイシヨンとにも拘らず善鬪し好成績をあげたが惜くも優勝を逸す。

十月二十九日快晴の秋空の下に對高千穂高商戰を開始したが24—1對の280成績で一勝し、三十日の對明大定期戰は本學557點を獲得し12點の差にて定期戰開始後五年連敗の辱を雪いだ。引續き拓大と對戰し一回戰はかなりリードをしてゐたが、二回戰に振はず一敗を喫す。

翌一日の對學習院戰には280點を得て、31點を獲して勝つ、正午少憩の後大保射場で、本年度關東學生聯盟の覇者早大と交戰し、29點の差をつけて快勝す

かくて上京後の成績斯然よく神宮大會の活躍を期待してゐたが、惜くも連日の對抗戰の疲勞と新人の試合度胸の不足で意外の不振に終つた。四日目東早、慶、明關西、關、立、同三大學東西對抗戰に中村主將以下七名、關西軍に加はり興味ある第二回對抗戰に凱歌を奏す

見事な戰績を殘して遠征から帰つた同部は又同三大學（慶、同）間對抗戰には覇を握り、學生部に前記五名堂々と編入され、斯くして我が陸上選手が日章旗の掲げられる晴の日も時間の問題となり一今より陸上部の世界的活躍ぶりが注目されてゐる

跳躍陣大—として新人であり最近驚然擡頭してゐる戸上は大島牢單の衣鉢を繼ぐに充分であり—ベルリン大會には大いに活躍せられんことを祈つてゐる

我陸上部は前回のオリムピック大會にも、大島、長尾の二選手を送り、華々しく國際爭鬪場に活躍し、又今夏ハンガリーの學生競技に長尾、谷口の二選手を派し、普く關大の偉名を全世界に發揚したのであつたが、又々今回ベルリン大會へ大躍五名の參加を見る活況を呈し、吾三の世界的健鬪振りは實に賞讃の外なく、學友諸士はこの偉業に衷心の謝意を表すると共に、その征途を盛んならしむるために熱誠なる聲援ならずんばはなしぬ

射撃部

對抗戰には大いに振ふ

十月二十六日夜、中村主將率ひるもとに部員十三名大阪出發—明治神宮大會に臨んだ、二十七日朝東京着、猛訓中を直ちに拓大主催の大學選手權大會に出場、疲勞と惡コンデイシヨンとにも拘らず善鬪し好成績をあげたが惜くも優勝を逸す。

十月二十九日快晴の秋空の下に對高千穂高商戰を開始したが24—1對の280成績で一勝し、三十日の對明大定期戰は本學557點を獲得し12點の差にて定期戰開始後五年連敗の辱を雪いだ。引續き拓大と對戰し一回戰はかなりリードをしてゐたが、二回戰に振はず一敗を喫す。

翌一日の對學習院戰には280點を得て、31點を獲して勝つ、正午少憩の後大保射場で、本年度關東學生聯盟の覇者早大と交戰し、29點の差をつけて快勝す

かくて上京後の成績斯然よく神宮大會の活躍を期待してゐたが、惜くも連日の對抗戰の疲勞と新人の試合度胸の不足で意外の不振に終つた。四日目東早、慶、明關西、關、立、同三大學東西對抗戰に中村主將以下七名、關西軍に加はり興味ある第二回對抗戰に凱歌を奏す

見事な戰績を殘して遠征から帰つた同部は又同三大學（慶、同）間對抗戰には覇を握り、學生部に前記五名堂々と編入され、斯くして我が陸上選手が日章旗の掲げられる晴の日も時間の問題となり一今より陸上部の世界的活躍ぶりが注目されてゐる

跳躍陣大—として新人であり最近驚然擡頭してゐる戸上は大島牢單の衣鉢を繼ぐに充分であり—ベルリン大會には大いに活躍せられんことを祈つてゐる

我陸上部は前回のオリムピック大會にも、大島、長尾の二選手を送り、華々しく國際爭鬪場に活躍し、又今夏ハンガリーの學生競技に長尾、谷口の二選手を派し、普く關大の偉名を全世界に發揚したのであつたが、又々今回ベルリン大會へ大躍五名の參加を見る活況を呈し、吾三の世界的健鬪振りは實に賞讃の外なく、學友諸士はこの偉業に衷心の謝意を表すると共に、その征途を盛んならしむるために熱誠なる聲援ならずんばはなしぬ

全日本庭球選手權大會に

倉光頑張るも

メンツェルに適はず

第十四回全日本男子庭球選手權大會は晴れの十一月七日より、治神宮大會に臨んだ、二十七日、甲子園コートに華々しく開催されたが、同大會には珍らしくもチエコッの豪メンツエル、ヘヒトの選手を加へて、國際選手權大會たらしめた。メンツエル、ヘヒトの選手は周知の如く本年のデ盃選手で、日本チームと第二次戰で顔を合せ、我がチームを輕く一蹴した優豪である。故に大會の興味は日本選手が如何にして圖者を破り覇權を日本に保持するかにかけられてゐる。殊に今秋初頭、全日本學生選手に今幡の期待がかけられ、我が庭球部より高瀬井高橋、藍ヒ井の三選手が加はつた。この强敵を向ふに廻して點戰する倉光は實力を示すには又と得難い好機であるので死鬪を試みるのは勿論であるが、當のメンツエルは今年二十八歳で油ののりきつたころであり、何しろ六尺三寸といふ巨軀は一見して壓迫感せしめ技術においてはバック陣しりとの世評もあるので、容易に敗退しまいと思はれたが、大會永山無念にもつき出しで敗れ二點の得點に終る、三回戰には阪大を邀へ、つき出しよりきりで、輕くストレートで破り一學五點を加へ、結局十二點を以て優勝十六校に悠々入り、第二日の爭鬪戰に出場資格を得、偉力を遺憾なく發揮した。

第二日は慶、後、科學援護團の大奉來援を得て大氣大いに上り、第一回取組は同西の宿將同學と當り、慶援はこゝを先途と力の限りを盡したが、慶方の差は如何とも仕難く、午後より行はれた個人トーナメントには、河村、古川、西良三君は第二回戰に勝ち、二回戰にも古川、西良勝殘りしも、三回戰に敗れも敗る

第三回學生航空選手權大會

荒川、吉田兩君の活躍目覺しく

優勝に輝く關西軍

第二回全日本學生航空選手權大會は去月二十八日より大阪東淀眉崎飛行場において朝日新聞主催の下に擧行され、參加選手、機數共に多く我民間航空界には見られざる壯觀を呈し、大會第二日には東久邇宮殿下の台臨を仰ぐなど感激の極に達し、大會の狀況は都下の諸新聞に大々的に報道され、又ラヂオで全國に刻々の實況を放送され、學生機の翼舞、親しく見んものと押寄せた觀衆は無慮數萬に達する活況、現出した

學生航空は昨年大會が創始せられて未だ滿一年しか經過せざるに拘らず、技術の進歩著しく、今大會において優勝を得て、31點永山無念にもつき出しで敗れ二點の得點に終る、三回戰には阪大を邀へ、つき出しよりきりで、輕くストレートで破り一學五點を加へ、結局十二點を以て優勝十六校に悠々入り、第二日の爭鬪戰に出場資格を得、偉力を遺憾なく發揮した。

第二日は慶、後、科學援護團の大奉來援を得て大氣大いに上り、第一回取組は同西の宿將同學と當り、慶援はこゝを先途と力の限りを盡したが、慶方の差は如何とも仕難く、午後より行はれた個人トーナメントには、河村、古川、西良三君は第二回戰に勝ち、二回戰にも古川、西良勝殘りしも、三回戰に敗れも敗る

學園自由論壇の收穫

千里山文化の脈動に萌し

岩崎賞を射る論陣

學内優勝辯論大會盛大に終る

學部

一等　法　山口俊男

二等　法　小林貢

三等　經二　加藤善規

學部で見事優勝し、譽れの都長賞を獲得して喜びに溢る山口君に感想を伺ふと

山口君談

「この種の試みは應分深い關心に發躍して成功したものと思ふ。辯論部の人たちは私等の内部の學生生活に智識の增養をなさうとする聽講としての動向が益等に適合されたのは私等の準備の爲だとも考へる。大いに喝采であつて欲しい催しであり、自由な思想の學園としてその中にこの大學精神を生成せしめて呉れる年中行事であれば更によい。

私は部長賞を奇蹟に贏ち得た、その歡びのほかに既に實驗された大學の思想人の聰明な發動をもつと强く感じ緊かせる運動を希望してゐる」

四大學聯盟討論會

十日午後一時より本館二階で開催された論題「自由主義は滅ぼすべきか」に就いて各校忌憚なく意見を發表し、互に質問討論して討議は盛大であつた

學園自由論壇の收穫

千里山文化の脈動に萌し

岩崎賞を射る論陣

學内優勝辯論大會盛大に終る

學部

一等　法　山口俊男

二等　法　小林貢

三等　經二　加藤善規

學部で見事優勝し、譽れの都長賞を獲得して喜びに溢る山口君に感想を伺ふと

山口君談

「この種の試みは應分深い關心に發躍して成功したものと思ふ。辯論部の人たちは私等の内部の學生生活に智識の增養をなさうとする聽講としての動向が益等に適合されたのは私等の準備の爲だとも考へる。大いに喝采であつて欲しい催しであり、自由な思想の學園としてその中にこの大學精神を生成せしめて呉れる年中行事であれば更によい。

私は部長賞を奇蹟に贏ち得た、その歡びのほかに既に實驗された大學の思想人の聰明な發動をもつと强く感じ緊かせる運動を希望してゐる」

四大學聯盟討論會

十日午後一時より本館二階で開催された論題「自由主義は滅ぼすべきか」に就いて各校忌憚なく意見を發表し、互に質問討論して討議は盛大であつた

蹴球部惜くも

京大と引分けす

覇權を目指す

大阪外語を經て6—1と下し神戸高商を4—3と辛勝の秋際へてリーグ前半戰を終へた、蹴球部はこの好調の波にのつて覇者たるの野望を想いて、神戸市民グラウンドで合宿練習を開始その意氣凄まじ

敏腕に報道せし岩崎新聞部長の拘員賞現の一報に見られる、學内優勝辯論大會はその新計畫を發表せられるや、一般學生のこの試みに對する關心に驚然として起り、去る十一日午後一時より熱烈な辯論の渦裡に開會されたが、出演者は二十餘名の多きに達し、聽衆學生は大いに感奮せられ、「この種の試みは應分深い關心に發躍して成功したものと思ふ。辯論部の人たちは私等の内部の學生生活に智識の增養をなさうとする聽講としての動向が益等に適合されたのは私等の準備の爲だとも考へる。大いに喝采であつて欲しい催しであり、自由な思想の學園としてその中にこの大學精神を生成せしめて呉れる年中行事であれば更によい。

私は部長賞を奇蹟に贏ち得た、その歡びのほかに既に實驗された大學の思想人の聰明な發動をもつと强く感じ緊かせる運動を希望してゐる」

四大學聯盟討論會

十日午後一時より本館二階で開催された論題「自由主義は滅ぼすべきか」に就いて各校忌憚なく意見を發表し、互に質問討論して討議は盛大であつた

名簿訂正

大西　奥輪（現）北花區春日出町一五

赤賀　岡賀（現）住吉區西住ノ江町二一村島方

鈴木千代松（現）港區住町一丁目六竹松方

中筋福三（現）北花區春日出町一五

橋本　敏道（現）原兵庫縣武庫郡鳴尾字西ノ口三ノ一〇

平田　榮輔（現）北花區春日出町三三〇一平田方

慶政　俊順（現）住吉區濱口町三丁目一九出原方

福田俊太郎（旧）大分縣國東郡東町田深（現）住吉區郡野ヶ八ノ二

山田　義臣（現）東淀川區國次町赤印田寺内

八坂　利武（現）港區夕凪町三ノ一三九

李　範　鎮（現）東淀川區國次町三

岡田　實之（現）三島郡吹田町二ノ一現住所、原上原鄰地

各部便り

馬術部

來る十一月二十四日、廣島四練兵場において擧行される、日本學生馬術協會西國支部主催第四回全國學生馬術大會に出場するが、昨年で既に三年連勝の榮を有する同部は勇躍明年連覇を目指し來る二十三日午後、部員七名西下するとの

米式蹴球部

愈々來月十五日甲子園南運動場で宮戰、晴の第一戰を東都の雄慶應と學と交へるべく目下盛んに猛練習中である

拳法部

去る十一月三日大阪洪火會本部道場において、拳法試合が催されたが、本學部員の成績は次の如し（○印勝）

○中村俊一（一）美濃（一）宇治田（專）○

○前田（學一）—村田（專）

武市（學一）月分中野（洪火會）

御座來る十一月十六日（土）大阪毎日新聞社講堂において同社主催第一回公開拳法大會が催される

十一月十六、七日の兩日法政や甲子園、早大專門部を藤井寺——と兩强豪を同時に相手として一氣に不敗を神戸せんと猛練習を開けてゐる。

學園自由論壇の收穫

千里山文化の脈動に萌し

岩崎賞を射る論陣

學内優勝辯論大會盛大に終る

學部

一等　法　山口俊男

二等　法　小林貢

三等　經二　加藤善規

學部で見事優勝し、譽れの都長賞を獲得して喜びに溢る山口君に感想を伺ふと

山口君談

「この種の試みは應分深い關心に發躍して成功したものと思ふ。辯論部の人たちは私等の内部の學生生活に智識の增養をなさうとする聽講としての動向が益等に適合されたのは私等の準備の爲だとも考へる。大いに喝采であつて欲しい催しであり、自由な思想の學園としてその中にこの大學精神を生成せしめて呉れる年中行事であれば更によい。

私は部長賞を奇蹟に贏ち得た、その歡びのほかに既に實驗された大學の思想人の聰明な發動をもつと强く感じ緊かせる運動を希望してゐる」

四大學聯盟討論會

十日午後一時より本館二階で開催された論題「自由主義は滅ぼすべきか」に就いて各校忌憚なく意見を發表し、互に質問討論して討議は盛大であつた

打撃不振に明大定期戰と

十日の再戰に大敗す

昭和十年度秋季リーグ戰も連續戰を獲得して終りを告げ、我が野球部は明治大學を慶應川球場に邀撃したが第六回定期戰は一勝二敗で三年連續獲得してゐたカップを久しぶりで明治に手渡し對抗戰も三勝三敗の同率となつた。

第一回戰は明治、山脇投手病んで出す吉田對西村（慶）の投手對抗戰を見たが吉田は早くも第二回連續長打へ喰ひノックアウトされた。五點の先取得點した我チームは攻守に好調を示し救援に立つた野村に好調を示し救援に立つた野村に好調を示し救援に立つた野村

ブックレビュー

桑木嚴翼著
西洋哲學史概説
新町德之

昭和の御代に入つてこのかた、日本文で西洋哲學史の概念を把握せんとするための良書のなかつたことはなしべて、斯學に關心をよせてゐる者のあき足らなさの一つだつた。

桑木嚴翼博士の新著書「西洋哲學史概説」は、このあき足らなさを充たすために世に公にせられたかの觀がある。一讀して蒙を啓かれ興觀して示唆を得ること鮮しとしない本著は序説・第一編、古代及中世の哲學第二編、近世哲學から成つてゐる。序説は西洋哲學史の概念。哲學史の問題。哲學の意義など。第一編は五章に分れ第一章、希臘哲學の發生——希臘最古の哲學。第二章希臘哲學の改造——希臘啓蒙期の哲學。第三章、希臘哲學の完成——希臘哲學組織期第四章、希臘哲學の傳播——希臘哲學の衰。第五章、中世哲學から成り第二編は六章に分れ、第一章、文藝復興期の哲學（一）準備期。第二章、文藝復興期の哲學（二）組織期。第三章、啓蒙時代の哲學。第四章、批評哲學。第五章、羅曼派哲學。第六章、近代の哲學から成り四六版三百九十六頁。その叙述は「大體において通説をとり來つたところに從つて西洋哲學の發達の跡を辿つて見よう」とせられたもので「新しい發見や異つた解釋などでまだ通説となつて居ないものはこれに入つてゐるものでその態度は自ら明かである。古代・中世の哲學に簡潔にも、近世哲學にやゝ詳密の叙述を見るのも一般史學の原則によられたものだらう。

抑も西洋史の研究は現代哲學研究、哲學概論研究のために必要な史的習慣ゝ賦與するものだから、哲學の門に入らんとする者は必ずや西洋哲學史書を座右に備へてをかなければならない。どんなにすぐれた哲學者、例へばアリストテレス（本書九四頁一〇〇六頁）でもカント（本書二六四頁—三〇五頁）でも皆な悉く古聖の信念。先賢の思想に影響されないものはないからだ。この意味において「本書は結局、學徒の入門書として博士の別著「現代哲學思潮」「哲學概説」（共に岡崎文彬本）と共に三部書をなすもので始めて哲學する者の必ず精讀すべきものである（東京早稲田大學出版部發行、定價金二圓）

著枝一田吉
日本憲法特質論
市古比智越

國體の明徴を徹底せしむるには全き理論に基づく機關説撲滅論を措きてはなしない。蓋し百々を通じて學説を辯り得るもの學説以外に存するの理たきが故である。

全き理論に基く機關説撲滅論は少くとも廣く日本歴史の全局と特質とから考察したものは他に良策の存すべきなるべし。著書未だ稀少なりと言はねばならぬ。吉田教授の本書の出版こそ實に有意義なるものと信ず。次に内容の一、二に就き感想を披瀝す。

日本憲法の精髄は統治權の主體が天皇にあらせられることは疑の餘地絶無なるに拘らず之が論議せらるるに至りたるは國民としてこれに關し教授の至りである。

これに關し教授は日本歴史の全局及び幾多の國土の論述より推論せられて餘すところ無き觀かある。翻ひて難を言へば一は叙述上にこれに從つて多少重複し且つ形容語句の多用の爲め難解の點なきを得ない。他は機關説信奉者の觀念を是正に役立ち得ることは認めらるゝも果だしの德なしとは言ひ得ないこの等は教授の絶大なる研究力及び學的良心に委ね今後に期待すべきだと思ふ。

日本憲法の特質は立憲政體である。之又疑ふべき餘地なきところなれども之が否定の言行の存することは悲しむべきである。

教授は此の點につきても史的文献に基づかれ精緻に論ぜられてゐる。立憲主義を輕視し獨裁政治を夢みつゝある輩は潔よく本著につくべきであると思ふ。

然に先づ國體を利然と認識せなければならぬ初學者にとりては此の上なき良書である。敢て推奨する次第である。

學藝

最近洋畫壇一瞥
田邊信太郎

ひところシュールレアリズムが、さながらもつとも清新な畫派であるかのごとく、わが國の洋畫壇を風靡したことがある。しかしフランスでシュールレアリズムの運動のおこつたのは、いまから二十年もまへのことである。そのころ第二宣言書が出版されつゝあつて第二宣言書が出版されつゝあつて第一部ではその運動が、つゞけられてゐるものゝやうである。第二宣言書のことはあまり知られてゐないが、最近またシュール・レアリズムの政治的立場といふのが公表されてゐる。ライナールはシュール・レアリズムの成立當時の狀態からして、フランスの經濟的不安の心理的一現象として解釋してゐるが、その解釋は寧ろ事實よりも理論がゆきすぎてゐる。

わが國のシュール・レアリズム運動も、このフランスの運動の移入であつたが、ものごとに緊用なわが國の畫家は、ある程度それをもこなすことができた。しかしわが國にはダヾイズムの運動はきはめて微弱であつて、ことに繪畫のうへでは活潑らしい活動が見出されない。立體派についてもその形式としては、珍しさのためにある限度においてとりいれられたが、それについてはいまだ、ほんとうに理解にまでおよんでゐない。それゆえにダヾイズムと立體派の混血兒であるシュールレアリズムは、その成立の基礎工事がわが國においては不完全である。シュール、レアリズムがわが國において、ア・ラ・モード繪畫としての性質をもたのは、ジャナリズムにあふられたからである。ジャーナリズムがそれをとりあげたのは、そのモチーブの珍しさのためであり、一般の鑑賞家がそれに目をみはつたのもその珍しさである。珍しさによつて魅力をもちはるのは、それが珍しいあひだである。みなれてくればその珍しさはうしなはれる。シュール・レアリズムがその珍しさといふ刺戟をなくしたとき、なぜかくまで鑑解なものを描かねばならないのか、かくまで難解な仕方によらねば畫家はその目的とするものを現しないのか、といふ疑ひがおこつてくる。シュール・レアリズムの宣言書はそれに答へてはゐるが、それは理論でしかない。その理論は事實としての畫面上の仕事よりも、はるかにゆきすぎて描畫をはなれた觀念意欲の理論が卒轉してゐる。

世界畫壇の中心地であるフランスでは、シュール・レアリズムによつて發地においしこまれて、いまのところ沈滯しきつてゐる。印象派・後期印象派・フォーヴイズム・立體派にまで、めざましい展開をしめしたフランスの畫家は、その推進力をうしなつたかのごとくおもへる。マチス・ドラン・ピカソなどは、フランス畫壇の支柱として、確實なすぐれた仕事をつゞけてゐるが、ピカソはスペイン人で家は、フランス人でないのが多い。それゆゑにフランス畫壇は、畫家の國際的連盟であるが、その國際的性質があまりに強いために、フランス人の畫壇といふ特質をうしなひつゝあるがごとくみえる。こののちたゞへフランスは世界畫壇の中心としての立場を、もちつゞけ得るとしても、はたしてフランス人がその畫壇に、指導的役割を演じ得るか、といふ問題については、むしろその斷言をさしひかへたい狀態にある。

フランスの美術雜誌ラムール・ダール、カイエ・ダール、ラール・ヴイヴンなど何れもすでに論じつくされた事實をむしかへしてゐるに過ぎない。ある雜誌のごときは昨年から、印象派にまでさかのぼつてその解説を掲げてゐる。しかしフランス畫壇のかゝる狀態は、わが國の洋畫壇にかへつて幸してゐるともいへる。わが國の洋畫壇はフランスからの強い刺戟なくして、それによつてうごかされるものを感じないからである。外からの刺戟がよはめられて、それに關心をいだくべきものを見出しないゆゑに、畫家はおのづからわが國の固有の藝術意欲、またはモチーブについて、反省する必要にせまられる。こゝにおいて洋畫はそのモチーブとして、日本的なものをとりあげねばならない。この傾向はすでに昨年、あるひは一昨年ごろから、わが國の洋畫壇にあらはれてゐる。あるひはこれを「シュール的思想」に、むすびつけて解釋をあり得るであらう。しかしわが國洋畫の日本的なものゝ再認識について、フアッショ的思想は間接にはいま度合で、はたらきかけてゐるとしても、むしろその直接なつよい影響をおよぼしてゐるものは、洋畫の材料とメシエによつて、たゞ洋畫の材料とメシエとの問題は、これとは異る別な課題であり、この後解決せらるべき興味ある問題である。

虚偽に喘ぐ
武笠幹雄　創作

もう十二時を少し過ぎてゐるかも知れない。秋の夜氣が六畳の一隅に坐つてゐる彼の身にも泌々と感ぜられた。

彼は先刻ゴーゴリ作の外套を讀終つてから彼の友人兄妹の生活苦に就いて聯想してゐた。——そして凡そ三時間にもなるだらう。どうやら戸外には雨の音がして風も微分加はつた樣だ。隙さへゐる樣な緊めつける樣な力が、どこともなく襲つてきて、まへの幻想を破壊してゆく。どうにも耐へられなくなつて、机の上にガバとおし伏した彼の腦裡には、その別の新しい幻想が渦の樣に巻き起つて、それが人魂の樣に闇夜の中へ流れてゆくのだ。

× × × ×

何年前の夏だつたか、彼は山口縣の或る海岸に遊ぶた友人の家に二週間可許り滞在したのである。友人の家は全く理想的とでつてもいい位素晴らしいところにあつて、低徊趣味の彼には全くすべてが氣に入つて了つた。

友人と彼は兎と角毎日の樣に家から數間しか離れてゐぬ海へ潮浴びにゆくのだつた。友人は仲々の泳ぎ手で何時も彼を深い所へ引張り込んで慘々困らせては、手を叩いて喜んでゐた。暫くぶつて二人は家に歸つて、其の代償なる人が心盛しの手料理を貪り食ふのだ。

「まあそんなに一べんに嬉しがらなくたつて誰も取りやしませんよ」

二人は食ふて食ひまくつた。酣親なる人は嬉し相だつた。

「あのそのおはぎね、先刻をかの孥子さんがお前につて持つて來て下すつたんだよ」

「ふうん!? 孥子さんが」

友人の面には輝かしい色が漲つた。

「おい、今晩をかに行かうぜ、たまには氣分轉換さ」

夕飯を終つて二人は、稍業の香と潮の香が錯綜して流れる田圃道をゆつくりと歩いてゐた。永い間都會生活にのみ浸つてきた彼には唯かうして星光りのみで細い四角の畔を辿ることは、非常な神經的勞作であつたが、四邊に漂ふてゐる何とも云ひ樣のない溫い甘美な氣分が彼を擽る樣に息つまらせた友人は太い欅を虚空に振廻して勢ひよく歩いては時々振返つて彼を待受けるのだつた。

螢が 時たま空中に光を見せたかと思ふと、急にどうかした拍子に ハタと消えて了ふ、畔に憩ふ田の水に飛び入る音が沈黙の頂律をバシヤツバシヤツと破つてゆく。

「おい孥子さんはね、元來この邊の女とは違ふんだよ」友人は何か思ひ出したらしく感にたへぬと云つた調子だ。

「女學校二年迄東京にゐたんだ」

「それで今はもう學校をよしてるんだね」

「うん、それがさ、彼女の親父つて云ふのがね何でも東京でお役人かなにかしてゐたんだが生憎死んで了つてさ、お陽母と二人でこつちのお親父さんの所へ歸つてゐたんだが……」

「それで現在何してるんだ」

「それがまだ可相にね、お陽母も去年死んで百姓の手傳ひをやつてゐるよ。然し伸々ねらい奴で本でも大分讀んでゐて、僕なんか顔負けする時があるんだからな」

殿々と遠く勾配を帶びてきて鄭れぬ彼の心臓は次第に踊しく打つてきた。

「この邊は岩が出てゐて危いから氣を付け給へよ、もう直だか」

坂の兩側には何の木だか鬱蒼と繁りてゐて星光りのする夜空を全く窟つて了つてゐた。彼は數度かぶ岩に躓り小石に躓き乍ら登つていつた。

「お若旦那、勿體なうございます」

友人は如何にもけさんな顔付をして話すのだつた。

「なんでもほあさんの兄の子とかを孥子に貰つてあの家を繼がさうだとてゐるんだがね、孥子さんは見ゐ透いた不幸な結婚はしたくないつて、母親のところに來る度に口癖の樣に言つてゐるよ」

「……」

驚嘆した單調な生活は意外にも大きな波紋を生んで、その撒かりの極致すら分らなくなつた田舎の尊しにも、秋刺を告げねばならぬ日は近づいた。どこまでも無關心にどこまでも低徊趣味を氣持を失はない樣に努めてきた彼ではあつたが、投げるべく宿命づけられてゐるら小石の畫く輪は意地悪く押しひろめられてどうする事もなたは躊躇を躊躇で伴つていらつしやる——ねほんとうの事を言つて下さい」

彼女は苦し相に身悶へて言ふのだつが、彼は彼女に對してか嘲罵かれる樣な感を感じて、女の頬を力一杯打つと泣く樣な氣持で闇を駆け下りたのだつた。

——乘合バスに席を占めると、村の人々は申合せた樣に萬歳を稱へた。その背後を遠く離れて孥子は云ひ樣のない瞳をジツト此方に向けてゐた。車が動いた。彼女もそれにつれて二、三歩ヨロ／＼と走つた。——若い男が力一杯彼女の手を引張つてゐる樣であつた。

彼女は唯無然苦茶に反抗した。男の手が放れた。彼女は蹣跚いて地上にバツタリ倒れた——彼の眼つた車はカーヴを曲つて走つてゐたしあの時孥子との會合が許されなかつたとしたら、この岡も永久の追憶に生きることはなかつたであらう。

孥子は一しほ面變れしてゐる樣に見ゐた。

「わたしどうすることが一番、正しいのでせう?」

「君の宿命を縱隱に守るのだ」

「でも、その宿命に從ふことが無僞である場合でも、やはりさうでせうか」

「……」

「無僞に生きることは、わたし堪ねられぬ苦惱ですわ」

「さうだ、苦惱に生きる——それは君の意志ではなくて絶對的のものだ」

「いゝね、信じられませんわ、あなたは躊躇を躊躇で伴つていらつしやる——ねほんとうの事を言つて下さい」

彼女は苦し相に身悶へて言ふのだつが、彼は彼女に對してか嘲罵かれる樣な感を感じて、女の頬を力一杯打つと泣く樣な氣持で闇を駆け下りたのだつた。

——乘合バスに席を占めると、村の人々は申合せた樣に萬歳を稱へた。その背後を遠く離れて孥子は云ひ樣のない瞳をジツト此方に向けてゐた。車が動いた。彼女もそれにつれて二、三歩ヨロ／＼と走つた。——若い男が力一杯彼女の手を引張つてゐる樣であつた。

彼女は唯無然苦茶に反抗した。男の手が放れた。彼女は蹣跚いて地上にバツタリ倒れた——彼の眼つた車はカーヴを曲つて走つてゐた

喜田貞吉著
「齋東史話」に就て
岡田實之

日本人としての我々が古典を忘却する程忍るべき罪惡を犯すべきなる時の一動因が神皇正統記及びものはない。私達は常に古典の母胎たる齋窟なる富士山と萬世一系の國體に無限の感謝を捧げねばならない。有史以來の數千年を表象する富士山と有史以來最も老いた國の一たる日本を無言裡に表現する萬世一系の國體こそ我々をして今日斯くあらしめる一の指標である。

一族の永遠なる繁榮に渡るたり德川幕府崩壊の跡を溯る時その一動因が神皇正統記及び日本外史なる復古主義の一産物であることを知るであらう。

太古齋窟神は邪欲の何物をも寄せ付けぬ純潔なものである。幾世紀をちろ／＼と燃ゆる焔であり永劫に燃ゆてゆく焔である。八咫烏は日知烏と化して大鷹に飛去つた日本武尊物語のカタストロフィの優美にして悲壮なるは「創世記」を以て創つた我國をよく表象してゐる。これこそ日本本來の神の源泉であり、永劫に燃ゆる焔であるのだ。太古への溯及、萬葉時代の回顧こそ我々のオアシスである。この意味において近來考古學史學の研究が旺盛なる事は實に欣ばしき限りである。月々出づる此の面の雜誌は無數に實に斯學の隆盛を思はしめる程であるが、今回考古學の泰斗喜田貞吉氏の「齋東史話」が出版されたことは近來の快事である。

氏に關しては今更喋々とする必要はない。東北帝大教授、京大講師で雄誌「歴史地理」「社會問題史」に連つて月々發表されたアイヌ族、蝦夷族その他の研究の廣範圍にして深厚なることは論ずるまでもない。近世以降考古學的研究に關して氏の名は高い